

市内小中学校における不登校の現状について

1. 不登校の現状と取組について

- (1) 2022年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、不登校児童生徒が全国で約30万人、兵庫県で約1.4万人に上り過去最高となっている。また本市においても、不登校児童生徒の状況は、その人数、割合ともに増加し続けており、昨年度794人(小230人、中564人)、割合にして3.26%の児童生徒が不登校となっている。1クラス40人と仮定すると、クラス内で1~2人が不登校になっている状況がある。

<不登校数増加の要因>

- ・一般に不登校への理解が広がり、無理をさせて学校に行かせる必要がないとの考えの保護者が増加している。
- ・2016年12月に成立した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」第13条にある「個々の不登校児童生徒の休養の必要性を踏まえ、当該不登校児童生徒の状況に応じた学習活動が行われることとなるよう」という考え方が学校関係者や保護者に浸透している。
- ・2019年度から新型コロナウイルス感染症の影響が続き、学校や家庭における生活や環境が大きく変化し、子どもたちの生活リズムが乱れ、影響を及ぼしている。

〔参考1〕【不登校児童生徒数とその割合】 ※2023年度は9月末現在

小 学 校	全国		兵庫県		明石市(市立)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
2018年度	44,471	0.70	1,873	0.65	82	0.51
2019年度	52,905	0.84	2,337	0.82	110	0.68
2020年度	62,862	1.01	2,829	1.01	123	0.76
2021年度	80,825	1.32	3,643	1.32	185	1.12
2022年度	104,265	1.72	4,938	1.80	230	1.37
2023年度	—	—	—	—	135	0.79

中 学 校	全国		兵庫県		明石市(市立)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
2018年度	114,379	3.80	5,736	4.30	333	4.51
2019年度	122,519	4.12	6,084	4.62	303	4.14
2020年度	127,671	4.30	6,424	4.91	338	4.57
2021年度	157,019	5.26	7,679	5.82	424	5.68
2022年度	185,810	6.27	9,239	7.06	564	7.49
2023年度	—	—	—	—	380	5.01

小・中学校	全国		兵庫県		明石市(市立)	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
2018年度	158,850	1.70	7,609	1.82	415	1.78
2019年度	175,424	1.92	8,421	2.04	413	1.76
2020年度	190,533	2.09	9,253	2.18	461	1.95
2021年度	237,844	2.60	11,322	2.80	609	2.54
2022年度	290,075	3.20	14,177	3.51	794	3.26
2023年度	—	—	—	—	515	2.08

(2) 2018年度と2022年度を比較した結果、小学校においては、約3倍近い数値となっており、不登校児童への支援および不登校になる前の早期発見等の対応を充実させることが必要であると考えられる。

国においても、文部科学省より、『不登校児童生徒への支援について、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、「社会的に自立することを目指す必要があることや、個々の状況に応じた適切な支援を行うこと』などを基本方針とする通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」(令和元年10月25日付)が出されている。また、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」(令和5年3月31日付)においても、『支援が必要な子供たちが学びにつながれるようにすることと、全ての学校を誰もが安心して学べる場に変えること』が明記された。

本市としても、不登校児童生徒が主体的に社会的自立に向かうよう、児童生徒を見守りつつ、不登校のきっかけや継続理由に応じて、適切な支援や働きかけを行う必要があると考えている。

<本市の取組> ※①・⑥・⑧は別添資料有

【不登校の予兆のある児童生徒への支援(未然防止・早期対応)】

- ①不登校未然防止「早期対応マニュアル」、相談FAXシートの活用
- ②不登校対策研修会(不登校担当教員の研修会)の開催 ※年間3回開催
- ③小中学校の連携促進(小中連絡会等)
- ④保育所(園)・幼稚園・小学校との連携による継続的な支援の充実
- ⑤学校内に別室を設けての学校生活の支援

・中学校においては、校内支援(適応)教室を常時開設し、教職員や中学校生徒指導相談員が役割分担をしながら支援している。小学校においては、校内支援(適応)教室として開設していない学校がほとんどで、保健室や校長室などで教職員が個別対応している状況である。

[参考2] 2022年度 中学校 校内支援(適応)教室 利用生徒数・・・138名
小学校 別室 利用児童数・・・202名

※中学校：正式利用者の人数 小学校：1回でも利用したことのある人数

【不登校児童生徒への支援】

- ⑥学校外の居場所の設置および運営
 - ・教育委員会が所管する「もくせい教室」(明石市教育支援センター)を市内3か所開設し、登校しにくい児童生徒の社会的自立に向けた支援を行う。また不登校となっている児童生徒に、様々な体験活動を通して、豊かな人間関係を構築することを目的に、「もくせいサテライト教室」を年間8回、市立少年自然の家を中心に実施している。
 - *保護者も参加できるため、保護者の交流の場としても活用されている。

[参考3] 2022年度(2023年度：10月16日現在) もくせい教室登録状況

	小学生	中学生	合計
東部もくせい教室	5(11)名	21(2)名	26(13)名
西部もくせい教室	11(6)名	12(9)名	23(15)名
朝霧もくせい教室	12(7)名	10(9)名	22(16)名
			71(44)名

- ・フリースクールなどの民間の団体等は、民間において自主的に設置・運営されており、不登校児童生徒に対し、個別の学習や相談、カウンセリング、社会体験や自然体験などの体験活動、授業形式（講義形式）による学習などを行っている。

※明石市7か所（フリースクール6施設、病院1施設）

明石フリースペース☆トロッコ・フリースクール feel 小久保・フリースクール feel 大久保・トライ式高等学院 中等部 西明石キャンパス・WILL 学園明石キャンパス
・フリースクールりんご・明石こころのホスピタルさくらコース

【参考4】2022年度(2023年度：10月16日現在) フリースクール通所生状況

	小学生	中学生	合計
フリースクール	4 (7) 名	21 (13) 名	25 (20) 名

- ・こども局の所管のもと、明石市こどもの居場所設置（運営パイロット事業）として、「公益財団法人こども財団」が委託を受け、「一般社団法人 こどものこれからとおとなの役割」が運営を行っている「あかしフリースペース☆トロッコ」を市内1か所開設し、明石市民の6～18歳までのこどもを対象に、設置目的に基づいたプログラムで支援を行っている。

【参考5】2022年度(2023年度：10月16日現在) あかしフリースペース☆トロッコ通所生状況

	小学生	中学生	合計
あかしフリースペース☆トロッコ	11 (9) 名	15 (13) 名	26 (22) 名

⑦ ICT機器（タブレット端末）を活用した支援（学習活動など）

- ・学校への復帰を望んでいるにも関わらず、家庭にひきこもりがちであるため、十分な支援が行き届いているとは言えなかったり、不登校であることによる学習の遅れなどに対し、ICT機器を活用した支援を行っている。

<具体的な支援の状況>

- ビデオ会議システムを活用して授業の様子をライブ配信している。
- 朝の会や帰りの会の様子をライブ配信している。
- 教育相談などのオンライン面談を実施している。
- 放課後にオンライン補習授業を行っている。
- 授業後の板書を撮影して配信するなどの「オンデマンド配信」をしている。

また、もくせい教室（明石市教育支援センター）においても、以下の取組を実施している。

- 在籍校の授業に、オンラインで参加をしている通室生を支援している。
- 通室生がタブレット端末を活用して、在籍校の先生から課題を出してもらったり、児童生徒が仕上げた課題を先生に提出したりするなど、やり取りを行っている。
- タブレット端末を活用してドリル学習や調べ学習などに取り組んでいる。

【保護者支援】

⑧ 教育・相談機関の情報提供および教育相談の実施

- ・域内の教育支援センターや相談機関、保護者の会、フリースクール等の民間施設などに関する情報を整理したリーフレットを作成し、保護者に提供している。
- ・青少年育成センターにて、子ども、保護者、教職員の方々からの相談に「相談員」が電話、来所による面談に応じている。